



# 「ヒバカリ」



爬虫類展が大盛況のうちに終わってしまったが、自身の爬虫類フィーバーが未だ収まらないので、今回はヘビの仲間でも以前飼育日誌にも登場したヒバカリをご紹介します。北九州にいるヘビの中では最も小型な部類で、大きくても大人の人差し指くらいの太さで全長60cmくらいにしかならない。しかもあまり人目につくヘビでもないのに、アオダイショウやシマヘビほどの認知度もないのは確か。そのためヘビに詳しくない人がヒバカリを見つけると何かのヘビの子供と勘違いするのは、「ヘビあるある」のひとつである。



変わった名前だがこれは昔、毒蛇と勘違いされて「噛まれたらその日ばかりの命」という言い伝えからという説が図鑑にも紹介されている。しかし、このヘビ実はとても大人しく、触っても滅多に噛まないし、ましてや毒もない。それなのになぜ毒蛇とされこんな名前がついてしまったのか腑に落ちなかった。しかし、先日インターネットで調べていたらこの名前の由来について面白い説を見つけた。

それはこのヘビがある時間帯だけ現れる様子がまるで「日を計る」ように出てくるみたいだから「ヒバカリ」という名前になったという説。確かにこのヘビ、昼間でも見られることはあるが、活動するのは主に早朝や夕方の薄暗い時間帯とされる。特に雨上がりの夕方に好物のミミズやカエル、オタマジャクシがたくさんいる田んぼや林道付近で複数匹を同時に見る事がある。ところが同じ場所を後日訪れても今度は全く出会えないということもしばしば。時間帯やその時の気象条件などが合わないと活発に活動していないのではと思える。館内で展示中のヒバカリたちも開館中にお客様の前に姿を現したことがほとんどない。しかし、たまに開館直後と閉館直前のほとんど人がいない時に姿を見せてくれることがある。なので「どうしても展示ケースのヒバカリが見たい!」という方はヒバカリのように「日を計って」見にきてください。

## スタッフの飼育日誌

### “禁を破った日”

こちら今号は爬虫類ネタで、いや～まさかアレを展示することになるとは。アレとはもちろんヤモリですね。この紙面でも過去何度か取り上げていますが、繰り返します。私はヤモリが大の苦手なのです。そういえば「今後展示することはない」とまでこの場で誓いを立てたはずだったのですが、とうとう自分の中の禁を破る日がやってきてしまいました。「紫川爬虫類三昧」と企画展のタイトルを銘打った以上、展示から彼らを外すわけにはいかなかったのです。でも「企画展が終わった後はどうするのか?」と真剣に悩みました。裏で飼いつけるか、それともヘビの餌にしてしまうかという考えもよぎりましたが……。

「安心してください!ちゃんと今も世話してますよ!」実は企画展終了後も他の爬虫類たちと一緒に常設展示に出しています。私も飼育展示スタッフの端くれとして、一度飼うと決めた以上はとことん彼らと向き合おう。そう決心しました。裏にしまおうのではなく敢えて館内で展示することで、お客様がいつご覧になっても綺麗であるように日々のメンテナンスに自らを向かわせるのです。そしていつの日か「ヤモリなんてへっちゃらですよ!」とこの紙面で高らかに宣言できるよう、今日もケースの中の糞掃除に餌やりから水分補給のための霧吹きまでビビりながらではありますが奮闘しています。ケースの中に手を入れた時じっとしていてくれればまだ良いのですが、驚いてケースの側面を駆け上がって外に出そうなの勢いの時があるので、もしケースの外に出た時にメンテナンス時は常に軍手着用です。やはり未だ素手で彼らを掴むのは無理です。まだまだ私は修業が足りません。

本当にヤモリを克服できる日は来るのでしょうか?その道のりはまだまだ遠いようです。



## 紫川爬虫類三昧 ～水環境館レプタイルズフェスティバル～ を開催しました!



2016年3月30日から5月8日まで紫川流域にすむ爬虫類をテーマにした企画展を開催しました。爬虫類と言えば水環境館ではこれまでカメのなかまを主に展示してきましたが、この企画展ではカメのなかま以外にも、トカゲのなかまやヘビのなかまも勢ぞろい。合計15種類の爬虫類たちを生体と標本で展示しました。人によって好き嫌いが大きく分かれる爬虫類ですが、展示ケースをのぞく多くの方が身近な場所にこんなにも色々な種類の爬虫類がいたことに驚きと感動を隠せない様子でした。また爬虫類はその食性や好む生息場所も種類によって様々です。水辺だけでなく、その周囲の森林や草原の環境が豊かでないとたくさんの種類の爬虫類たちが生きてはいけません。この企画展を通じて爬虫類たちの多様性は勿論、紫川流域に残された自然環境の多様性にも関心を向けていただけたのではないのでしょうか。ただ気持ち悪がったり、怖がったりするだけでなく豊かな自然のシンボルとしてみなさんの身近な場所にいる爬虫類たちに出会いに行ってみませんか。